

## 【決算ハイライト】

- ① 2022 年度連結決算（カッコ内は 2021 年度比）
  - ・売上高＝56,472 百万円(+12.1%)、経常利益＝6,282 百万円(+11.3%)  
→鉄鋼部門 製鉄所システムリフレッシュ進展の影響等で、過去最高の売上高・利益を更新。
- ② 2023 年度連結見通し（カッコ内は 2022 年度比）
  - ・売上高＝57,000 百万円(+0.9%)、経常利益＝6,100 百万円(△2.9%)  
→売上高は中期経営計画の最終年度[2024 年度]の目標値[570 億円]を 1 年前倒しで達成見通し。  
経常利益は社員労務費・開発パートナーの外注費増等の増加を見込み、若干の減益見通し。
- ③ 配当
  - ・中期経営計画の配当方針である、配当性向 35% 目途に沿って、2022 年度は過去最高となる 97 円/株[中間 40 円、期末 57 円]を予定し、23 年度は 92 円[中間 40 円、期末 52 円]を予想。
- ④ トピックス
  - ・サプライチェーンマネジメント(SCM)事業の拡大  
→当社はキナクシスジャパン株式会社の Rapid Response(ラピッドレスポンス)というパッケージソフトを主体として SCM 事業を展開。昨今は半導体関連の企業への拡販が進展し、2023 年度は、2019 年度比 192%の売上増を計画。
  - ・ローコードビジネスへの参入状況  
→当社は 2019 年からローコード開発プラットフォームの OutSystems(アウトシステムズ)を採用し、2021 年には Outsystems ジャパン株式会社とパートナー契約を締結。事業は順調に拡大しており、2023 年度は、2021 年度比 241%の売上増を計画。
  - ・多様性に向けた取組み（女性役員の就任内定）  
→当社は 2023 年 6 月の株主総会の議案に取締役 2 名、監査役 2 名の就・退任を上程予定。うち取締役 1 名と監査役 1 名は女性候補者を予定。

## 【質疑応答要旨】

Q1：2023年度は処遇改善の影響で減益見通しということだが、労務費アップは何%くらい見込んでいるのか？

A1：約 6%の労務費アップを想定している。これは、昨今話題になっているインフレ対応ということではなく、優秀な人材の採用、また、社員のリテンションが経営として重要と考えており、外注費アップも含め、当社の事業を継続していくために必要と認識している。

Q2 : 2023 年度の配当見通しが減配となっていることについて、配当性向を基にした考え方ということ  
は理解したが、減益の見通しではあるものの、22 年度の 97 円/株を維持できないほどの業績では無  
いと認識している。減配の重みを踏まえてもらいたいと思うが？

A2 : 当社は、安定配当ではなく、配当性向の方針に沿って、利益に応じた配当額を機械的に設定するこ  
ととしているのでご理解頂きたい。一方で、今期の業績には、労務費・外注費の費用増の要因は織  
り込んでいるものの、お客様との契約単価の引き上げによる売値のアップは織り込んでいない。こ  
れは、お客様との交渉が現時点では見通せないためだが、2023 年度の重要な経営課題として、適  
切な契約価格へのアップに取り組んでいくので、見通しに織り込めるようになった段階で、業績に  
反映していきたい。

Q3 : 契約価格のアップへの取り組みについて、大口顧客が大株主だが、適切な交渉ができるのか？

A3 : 大株主とはいえ、顧客の 1 社であるので、マーケットの状況をご説明しながら、リーズナブルな契  
約価格になるようしっかりと交渉していきたい。J F E スチールからの仕事は契約単価に応じて仕  
事量が変わるという性質のものではなく、長期的に継続可能なビジネスを行なうために必要な契約  
価格はどのような水準なのかということ、双方で意見を出し合い、お互いが納得できる水準での  
着地点を探していきたい。

以上